

平成20年度入局式 福地会長挨拶要旨

入局された皆さんに、まず心からお祝いのエールを贈ります。さて、NHKは日本で唯一の公共放送です。税金で運営される国営放送でもなく、スポンサーで支えられる民間放送でもありません。国民・視聴者の一人ひとりが平等に負担する受信料で運営されています。ですから、特定の利益の代表、特定の価値観、特定の団体や宗教といったものに偏らない不偏不党の姿勢を貫くことが求められます。番組制作や報道に際しても、何人からも影響を受けない編集権の自立が何よりも大切になります。

そこで働く職員に求められるものの第一は、「高い倫理観」と「低い姿勢」です。この1月、NHK会長に就任した際の挨拶で、私は、NHKは決して不沈艦ではないと言いました。世界五大監査法人に数えられるアーサーアンダーセンというグローバルな巨大企業がかつてありましたが、わずか5年で絶頂から奈落に転落、消滅してしまいました。その結果、勤めていた8万人が職を失いました。事の発端は、不祥事を告発する、たった1件の社内メールでした。監査法人は、特定企業の内情や秘密を知っているわけですから、高い倫理観が必要です。にもかかわらず、その倫理観を見失ったことで、一瞬にしてこの巨大企業が地上から消え去ったのです。NHKも公共放送として得た情報をもとに仕事をしています。その意味では、民間よりさらに高い倫理観が求められます。NHKではわずかな心ない人たちが起こした不祥事によって、多くの職員が伏し目がちになって誇りを失いつつあるやに見えます。そうではなく、職員の皆さんには日本の公共放送を担っているという高い誇りを持って欲しい。そうした一方で、姿勢は低くしていただきたいと思います。政治家や財界人、著名人が皆さんにきちんと応対してくれるのは、NHKの看板があるからです。これを自分の力だと勘違いすると、傲慢・不遜になり、結局、相手の信頼を失います。

皆さんに求めたい第二は、仕事は縦軸が中心になっても、その中で横とのコミュニケーションを忘れてはならないことです。配属される各職場でプロフェッショナルな仕事をしていただきたい。一人ひとりが受け持つのは、ほんの一部分ですが、それがないと組織がうまく動きません。バレエの舞台もそうですし、私が以前、お世話をしていたフットボールチームでもそうですが、スポットライトが当たるのは、ほんの数人です。しかし、そのほかの仲間が、縁の下の力持ちに徹するとき、初めて組織はうまくかみ合ってきます。皆さんには同期で入局した150人の仲間がいます。同期の仲間は極めて大事な情報のネットワークです。皆、縦軸の中で仕事をしますが、横の仲間が大切です。仕事の内容が全く異なる横との接触が、何か新しいものを生み出す原動力になります。私が就任して、真っ先に手がけたのは、役員個室を廃止し、大部屋にしたことです。まず、トップが横のコミュニケーションをとるためです。次は、一番若い新入職員の皆さんが横との情報共有をしてください。

NHK会長に就任する前、私は、不祥事がもぐら叩きのように起きる中で本当にやっていけるのかと、少々、沈んだ気持ちでいました。そして、就任から2か月、いろんな職員たちと出会いました。分かったのは、何と人材の豊富な組織だろう、ということでした。今、私は大きな期待と夢を持っています。各界の人びとが、皆、NHKの番組は素晴らしいと言ってくれます。これを作っているのは皆さんです。NHKだからできる、NHKにしかできない報道や番組制作をするのが皆さんです。皆さんの成長に大きな夢を抱きながら、お祝いのエールとします。